

おはようございます。

今回の私の一般質問は、

1 未来に開かれたまちづくりについて、です。

(1) 障がいがあっても高齢になっても自分らしく生きられる支援について

ア 障害者総合支援法と介護保険制度の現状について

障がい者が65歳になると、それまで利用していた障がい福祉サービスではなく、介護保険サービスを優先させられることとなります。いわゆる「65歳の壁」問題ですが、これは、2018年の制度改正後も相変わらず存在します。

そこで、まずは市の現状を確認します。

Q1 市において、身体障がい者のうち65歳以上は何%ですか。

Q2 65歳以前から障害福祉サービスを利用しているのは何人、何%ですか。

Q3 障害者総合支援法と介護保険制度における支援の考え方の違いを、市はどのようにとらえているのか、お伺いします。

イ 高齢障がい者の自律生活、自ら選択しつつ自分の暮らしをコントロールして暮らす生活、を支える支援の在り方について

Q4 65歳を期に介護サービスを優先するとされ、障害福祉サービスが従前より減らされたため、「(自らを律する)自律した生活」が困難になったり、体調が不調になるなどの事例は把握していますか。

Q5 市における障害福祉サービス等の支給決定における基準は明文化されていますか。

Q6 支給決定基準の策定プロセスに当事者参加はあったのでしょうか。

Q7 市の支給決定基準の公開について市長の見解をお伺いします。

Q8 65歳を過ぎても障がい者が合理的配慮に基づき、自律した生活ができるように支えることが必要です。どのような支援をしていくのかについて、市長の見解をお伺いします。

次に

(2) 有機物を循環させる取り組みについて

未来にひらかれたまちは持続可能な社会であり、それは循環型の社会であるはずで、段ボールコンポストの活用は、生ごみを減らすためだけでなく有機物を循環させる取り組みとしてとらえ、しっかり循環させていく流れをつくる必要があります。

ア 段ボールコンポスト利用促進について

生ごみは有機物であり、地球環境の維持保全を考えれば、大地に返し循環させていくことが大切です。段ボールコンポストは、基材（基盤となる材料）、三鷹市のHPでは、土壌改良剤の「ピートモスとくん炭」を使用しています。に生ごみを混ぜ込むことにより好気性の（空気を好む）菌による発酵・分解により、外見上は生ごみを消滅させる働きを持ちます。熟成された基材は堆肥として活用できるものです。

Q 9 市では、段ボールコンポストの活用について、HPで公開していますがそれ以外の普及促進は何か行っているのでしょうか。

段ボールコンポストの持続的な普及促進には、段ボールコンポスト作成キットの提供・販売や作成・活用講習会、アフターフォローの体制構築が必要と考えます。

Q 10 市及び関係団体での普及促進体制構築についてお伺いします。

イ 段ボールコンポストの基材の循環について

段ボールの基材を市内産、あるいは多摩産の竹パウダーを活用する例が増えています。地域内循環であり、持続可能な社会のためにも、三鷹市での採用を検討すべきです。

Q 11 市内産竹パウダーの製造、あるいは多摩産の竹パウダーの調達についての考えをお伺いします。

Q 12 基材として併せて使用する炭についても、竹炭を製造して活用することが可能です。竹炭の使用・調達についての考えをお伺いします。

生ごみを投入し分解させた基材は3月から半年間利用した後に、別途熟成させて堆肥になります。集合住宅では、熟成させたり、堆肥として全量を自家消費することが困難なことが多いです。そのため、別途熟成させたり、また堆肥として提供する場が必要です。市として、段ボールコンポストの使用済み基材を熟成させ、堆肥として活用する場の設置を検討すべきです。

Q 13 使用した基材を熟成させる場の設置について市の考えをお伺いします。

Q 14 堆肥を、公園や道路の花壇や樹木の追肥として活用することについて市の考えをお伺いします。

Q 15 段ボールコンポストを活用し、有機物を大地に戻す循環を進め、循環型社会の推進に寄与することについて市長の所見をお伺いします。

(3) 東京外環道工事について

東京外環道工事については連続 26 回目の質問となります。

ア 中央ジャンクション（仮称）ランプシールド掘削工事について

中央ジャンクションでは大泉方面からの本線トンネルと地上の東八道路と高架の中央高速とに接続させるための坂道・ランプトンネル 2 本が掘削工事中です。南行きトンネルと接続する予定の H ランプシールドマシンは工事ヤードの中で掘削を終了しています。

Q 1 6 掘削工事を終了した H ランプシールドマシンは地下何メートルにあり現状と今後の予定を事業者から聞いていますか。

北行きトンネルと接続する予定の A ランプシールドマシンは、現在、工事ヤードを出て、住宅地の地下を掘進中です。

Q 1 7 A ランプシールドマシンは工事ヤードから何メートル掘進したのですか。また、あと何メートル掘進する予定ですか。

Q 1 8 本線トンネルと接続するための地中拡幅部の工事予定地で掘進を終了する予定ですが、掘進終了後の状況について説明を受けていますか。

Q 1 9 掘進終了地点は大深度か否か。直上に住む市民に正確な位置を含めたマシンの情報が伝えられているのかについてお伺いします。

Q 2 0 振動・騒音計が、ランプシールドマシンの位置に設置されていますが計測データの公表はいつどこで行っていますか。

東名方面からくる予定の本線シールドマシンは、2022 年 2 月 28 日東京地方裁判所による工事差止決定によって停止しています。したがって、A ランプトンネルにしても H ランプトンネルにしても、接続すべき本線トンネルは、司法手続きによって決定を覆さなければ、中央 JCT に到達はしないのです。しかし、一方で、中央ジャンクション南側シールドマシンも、何年も前に組み立てが終わって待機中です。

Q 2 1 南側シールドマシンの掘削工事について、いつごろ稼働させるかなどの情報はありますか。

イ 地下における空気と水の動きについて

三鷹市域におけるシールド工法は気泡注入方式です。シールドマシンの前面から土の中に注入された空気は、その全てが切り崩した土砂といっしょに回収されているわけではないことは、東名 JCT の野川でも大泉 JCT の白子川でも気泡が噴出したことから明らかです。工事に伴う土中の空気や水の動きも監視すべきです。

Q 2 2 事業者は排土管理は行っていますが、空気の注入量と回収量などの管理を行っているとの説明はありましたか。

Q 2 3 土の中の空気、それに伴う水の動きなどの監視はどのように行っていると説明されていますか。

気泡は泡状にするために界面活性剤が使用されています。

Q 2 4 外環道工事用地周辺に三鷹市の水道水源はいくつありますか。既に工事中の中央ジャンクション周辺とそれ以外ではそれぞれ何本ありますか。

Q 2 5 水道水源は東京都の管理ですが、その水位や水質管理について逐次報告をチェックできる体制にありますか。

以上で壇上での質問を終わります。え自席での再質問を留保いたします。